

経済学史研究

(旧 経済学史学会年報)

49-2

2007年12月

【論文】

ジェイムズ・ステュアートの銀行論

——銀行信用の発展的拡張——

古谷 豊 (1)

ヴェブレンによるイギリス経済思想史解釈の意義

——進化論的経済学の位置をめぐって——

石田 教子 (18)

N.D. コンドラチエフとS. デ・ヴォルフの大循環研究

——1920年代の研究を通じた両者の相違——

大槻 忠史 (35)

【研究動向】

契約理論

——ミクロ経済学第3の理論への道程——

伊藤 秀史 (52)

【Notes and Communications】

【書評】
